

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) **公開特許公報(A)**

(11) 特許出願公開番号

特開2004-149183

(P2004-149183A)

(43) 公開日 平成16年5月27日(2004.5.27)

(51) Int.Cl.⁷

B65D 71/12

B65D 5/04

F I

B 6 5 D 71/00

B 6 5 D 5/04

テーマコード (参考)

3E060

3E067

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2002-318270 (P2002-318270)

(22) 出願日 平成14年10月31日 (2002.10.31)

(71) 出願人 000115980

レンゴー株式会社

大阪府大阪市福島区大開4丁目1番186号

(74) 代理人 100074206

弁理士 鎌田 文二

(74) 代理人 100084858

弁理士 東尾 正博

(74) 代理人 100087538

弁理士 鳥居 和久

(72) 発明者 西川 洋一

東京都千代田区内幸町1丁目1番7号 レ
ンゴー株式会社東京本社内

Fターム(参考)	3E060	AA03	AB02	BC04	CA01	CA12
		CA23	DA09	DA11	EA06	EA13

[最終頁に続く](#)

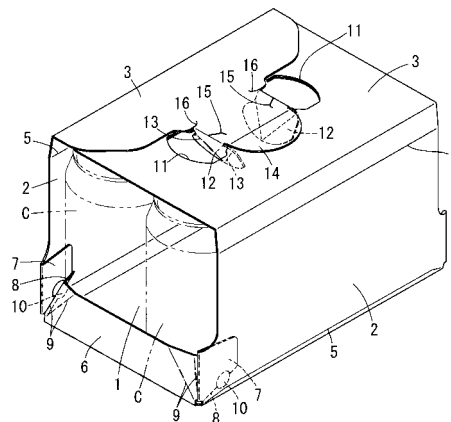
(54) 【発明の名称】 紙製マルチパック

(57) 【要約】

【課題】複数本の缶を店頭で迅速に包装でき、持ち運び時には缶が飛び出さない紙製マルチパックを提供する。

【解決手段】底板 1 の両側に側板 2 及び上板 3 を順次連設し、底板 1 及び側板 2 の端縁から保持板 6 及び折込板 7 をそれぞれ延出して、保持板 6 と折込板 7 の境界をなす隅折線 8 を側板 2 の端縁から 45°より大きい角度で傾斜させ、保持板 6 の端部に底板 1 の角から沿折線 9 を入れたブランクから構成し、保持板 6 及び折込板 7 を内側へ折り曲げて、折込板 7 を側板 2 に貼り付けておき、底板 1 に缶 C を載せて側板 2 及び上板 3 を巻き込むように折り曲げつつ、保持板 6 を起立させ、上板 3 同士を係合させて缶 C を包装する。保持板 6 の両端部が缶 C の外周に沿うように折れ曲がり、缶 C が締め付けられるように抱持される。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

底板 1 の両側に側板 2 及び上板 3 を順次連設し、底板 1 及び側板 2 の端縁から保持板 6 及び折込板 7 をそれぞれ延出して、保持板 6 と折込板 7 の境界をなす隅折線 8 を側板 2 の端縁から 45°より大きい角度で傾斜させ、保持板 6 の端部に底板 1 の角から沿折線 9 を入れたブランクから成り、保持板 6 及び折込板 7 を内側へ折り曲げて、折込板 7 を側板 2 に貼り付けておき、底板 1 に円筒容器を載せて側板 2 及び上板 3 を巻き込むように折り曲げつつ、保持板 6 を起立させ、上板 3 同士を係合させて円筒容器を包装する紙製マルチパック。

【請求項 2】

前記隅折線 8 から折込板 7 を弧状に切り込んで、保持板 6 の両端から突出する戻止片 10 を形成し、この戻止片 10 が起立途中の両側板 2 に当接するようにしたことを特徴とする請求項 1 に記載の紙製マルチパック。

10

【請求項 3】

前記一方の上板 3 に 2 個の指穴 11 を形成し、他方の上板 3 に指穴 11 より幅の大きい 2 個の押込片 12 を設け、この押込片 12 を屈曲させつつ指穴 11 に押し込んで、上板 3 同士を係合させることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の紙製マルチパック。

【発明の詳細な説明】**【0001】****【発明の属する技術分野】**

この発明は、飲料缶等の円筒容器を複数本まとめて包装する紙製マルチパックに関するものである。

20

【0002】**【従来の技術】**

一般に、缶ビールの包装には、図 6 に示すようなマルチパックが使用されている。このマルチパックは、耐水性の板紙から成り、上板 50 の両側に側板 51 及び底板 52 を順次連設して複数本の缶 C を包み込み、底板 52 同士を係合させ、側板 51 の端縁から延出した折込片 53 を折り込み、その上下端から上板 50 及び底板 52 に繋がる抱持片 54 を缶 C の外周に沿わせて缶 C を抜け止めし、上板 50 に設けた 2 個の押込片 55 を指で押し込むことにより、掴んで持ち運べるようにしたものである。

30

【0003】**【発明が解決しようとする課題】**

ところで、量販店で販売される缶ビールは、上記のようなマルチパックで包装されて段ボール箱に詰められ、販売店では、段ボール箱を開けてマルチパックを取り出すだけで、マルチパックごとに販売できるように二重包装されているが、このような包装は過剰包装であるとの批判が強い。

【0004】

このため、缶を箱詰めする際にはマルチパックでの包装をやめ、店頭で販売する際に複数本の缶をまとめて包装する方法が検討されているが、従来のマルチパックは、手作業で組み立てることが難しいという問題がある。

40

【0005】

そこで、この発明は、複数本の缶を店頭で迅速に包装でき、持ち運び時には缶が飛び出さない紙製マルチパックを提供することを課題とする。

【0006】**【課題を解決するための手段】**

上記課題を解決するため、この発明に係るマルチパックは、底板の両側に側板及び上板を順次連設し、底板及び側板の端縁から保持板及び折込板をそれぞれ延出して、保持板と折込板の境界をなす隅折線を側板の端縁から 45°より大きい角度で傾斜させ、保持板の端部に底板の角から沿折線を入れたブランクから構成し、保持板及び折込板を内側へ折り曲げて、折込板を側板に貼り付けておき、底板に円筒容器を載せて側板及び上板を巻き込む

50

ように折り曲げつつ、保持板を起立させ、上板同士を係合させて円筒容器を包装することとしたのである。

【0007】

このようなマルチパックでは、扁平な状態から簡単に組み立てて缶等の円筒容器を包装することができ、包装状態では、保持板が円筒容器をその外周に沿って締め付けるように抱持するので、持ち運び時に円筒容器が端面の開口部から飛び出すことがない。

【0008】

また、前記隅折線から折込板を弧状に切り込んで、保持板の両端から突出する戻止片を形成し、この戻止片が起立途中の両側板に当接するようにしておくこと、底板に円筒容器を載せる際、両側板及び保持板をやや起立した状態に保持しておくことができるので、包装時の作業性が向上する。 10

【0009】

前記一方の上板に2個の指穴を形成し、他方の上板に指穴より幅の大きい2個の押込片を設け、この押込片を屈曲させつつ指穴に押し込むと、上板同士が強固に係合するので、不意に包装が解ける現象が防止される。

【0010】

【発明の実施の形態】

以下、この発明の実施の形態を添付図面に基づいて説明する。

【0011】

このマルチパックの板紙から成るブランクでは、図1に示すように、底板1の両側に側板2及び上板3が順次連設され、一方の上板3の先端縁には重合板4が連設されている。各側板2には、缶を巻き込んだとき、缶の外周上下の絞り部分に沿うように、2本の沿折線5が設けられている。 20

【0012】

底板1の端縁には保持板6が、側板2の底板1寄り部分の端縁には保持板6に繋がる折込板7がそれぞれ連設され、保持板6と折込板7の境界をなす隅折線8は、図2に示すように、側板の端縁から45°より大きい角度で傾斜している。

【0013】

また、保持板6の端部には、底板1の角部に形成された逃穴を起点として、内側へ順次大きな角度で傾斜した2本の沿折線9が入れられ、隅折線8から折込板7を弧状に切り込むことにより、保持板6の両端から突出する戻止片10が形成されている。 30

【0014】

そのほか、図1に示すように、一方の上板3及び重合板4には、2個の指穴11が形成され、他方の上板3には、指穴11より幅の大きい2個の押込片12が設けられている。この押込片12には、先端側へかけて間隔が狭くなるV字状の折目13が設けられている。

【0015】

また、上板3の端部には、2個の押込片12に挟まれた端部に摘み片14が設けられ、押込片12の基端から内側へ切込15、16が入れている。底板1には、組立時に保持板6を起こすための補助穴17が形成されている。

【0016】

このようなブランクから組み立てられるマルチパックは、予め、保持板6及び折込板7を内側へ折り曲げて、折込板7を側板2に貼り付けると共に、重合板4を折り曲げて一方の上板3の裏面に貼り付けておき、この扁平な状態で販売店へ輸送して、保管しておく。 40

【0017】

そして、販売店で缶を包装する際には、図3に示すように、底板1に缶Cを載せて側板2及び上板3を巻き込むように折り曲げ、これに伴い保持板6を起立させる。このとき、この戻止片10が起立途中の両側板2に当接し、両側板2及び保持板6をやや起立した状態に保持しておくことができるので、6本の缶Cを容易に底板1に載せることができる。

【0018】

その後、図4に示すように、両側板2が直立した状態で、一方の上板3に他方の上板3を 50

重ね合わせ、押込片 1 2 を V 字状の折目 1 3 沿いに屈曲させつつ指穴 1 1 に押し込んで、上板 3 同士を係合させる。

【 0 0 1 9 】

このように 6 本の缶 C を包装すると、保持板 6 の両端部が缶 C の外周に沿うように折れ曲がり、6 本の缶 C が保持板 6 で締め付けられるように抱持されて、堅固に包装される。

【 0 0 2 0 】

このため、缶飲料の購入者がマルチパックを掴んで持ち運ぶ際、マルチパックを前後に振ったり、捻るように回したりしても、缶 C が端面の開口部から飛び出すことがなく、また、上板 3 同士が強固に係合しているので、不意に包装が解ける現象が防止され、確実に包装された状態で持ち帰ることができる。

10

【 0 0 2 1 】

そして、このマルチパックから缶 C を取り出す際には、図 5 に示すように、摘み片 1 4 を引き上げて、押込片 1 2 の基部で上板 3 を切断し、上板 3 同士の係合を解除して、マルチパックを解体する。

【 0 0 2 2 】

このとき、上板 3 の裂目が押込片 1 2 の基部から内側へ逸れようとするが、裂目が切込 1 5 , 1 6 に順次到達して連続するので、途中で千切れることなく上板 3 を切断することができ、開封に手間取ることがない。

【 0 0 2 3 】

【 発明の効果 】

20

以上のように、この発明に係る紙製マルチパックは、扁平な状態から簡単に組み立てて缶等の円筒容器を包装することができ、包装状態では、保持板が円筒容器をその外周に沿って締め付けるように抱持するので、持ち運び時に円筒容器が端面の開口部から飛び出すことがなく、確実に包装された状態で円筒容器を持ち運ぶことができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 図 1 】 この発明に係る紙製マルチパックの実施形態のブランクを示す図

【 図 2 】 同上の一部拡大図

【 図 3 】 同上の組立過程を示す斜視図

【 図 4 】 同上の包装状態を示す斜視図

【 図 5 】 同上の開封過程を示す上部拡大斜視図

30

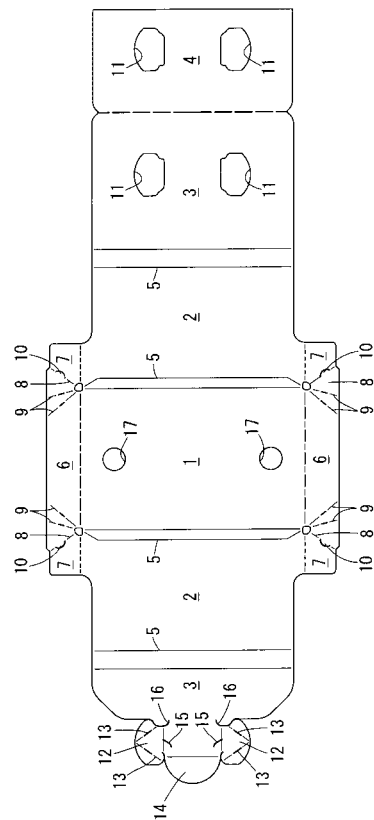
【 図 6 】 従来マルチパックを示す斜視図

【 符号の説明 】

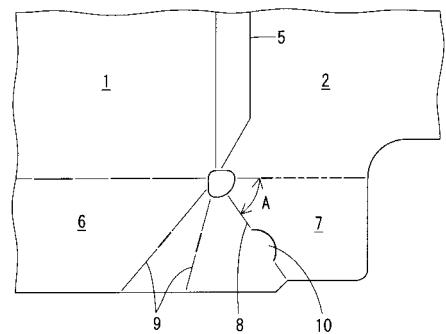
- 1 底板
- 2 側板
- 3 上板
- 6 保持板
- 7 折込板
- 8 隅折線
- 9 沿折線
- 1 0 戻止片
- 1 1 指穴
- 1 2 押込片

40

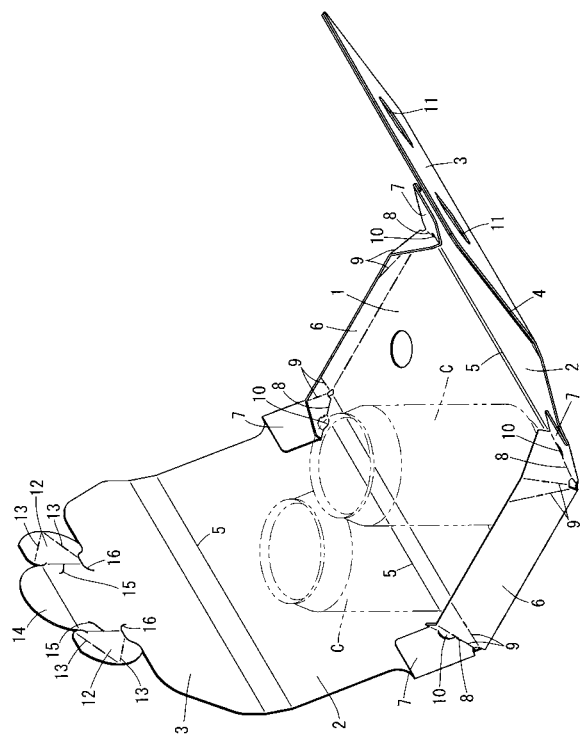
【 図 1 】



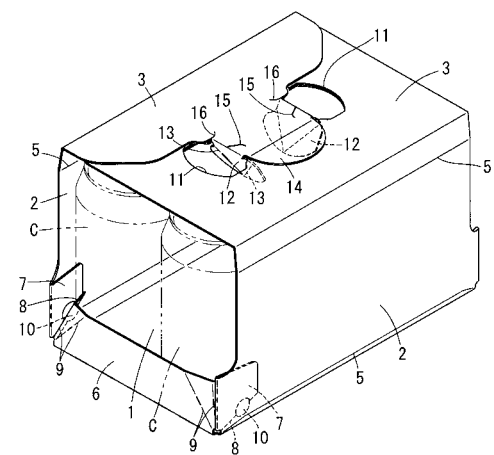
【 図 2 】



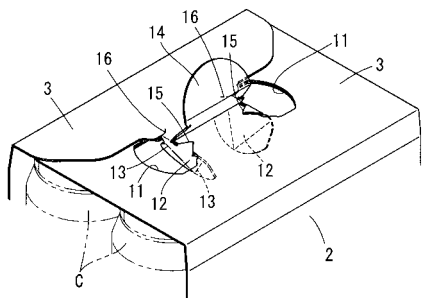
【 図 3 】



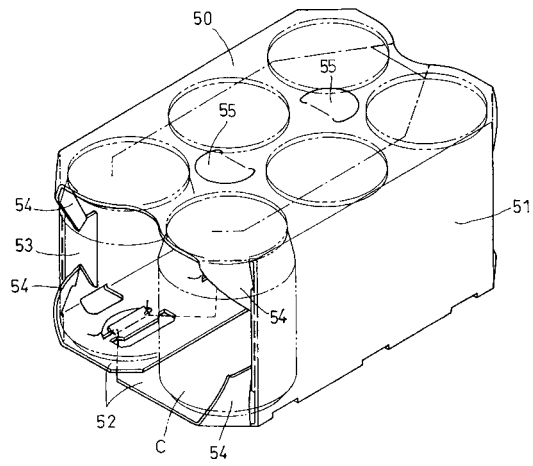
【 図 4 】



【 図 5 】



【図 6】



フロントページの続き

F ターム(参考) 3E067 AA03 AA22 AB26 BA19A BB01A BC04A EA18 ED03 ED04 FA01
FC04